赤潮被害対策調査特別委員会

6月24日開催された赤潮被害対策調査特別委員会では、委員会から町への提言に対し回答がありました。

回答は日高中央漁協、えりも漁協からありました。

①人工漁礁の設置について

両漁協から、泥場が多く漁礁設置は適地が少ない、設置することにより漁場の利用海面がなくなる、他魚種、漁場の調整がとれない、冬島海域は海面が狭く場所が限定されている、操業漁場がなくなる等の理由により困難との回答がありました。

②赤潮ロードマップへの要望

両漁協から、タコの魚種追加、ツブの種苗生産における資源回復、漁場環境、被害状況の早期把握等の要請がありました。

このほか償還期限の延長や漁獲共済については、災害による特例としての免責除外や共済限度額の算定基準の見直しということで、要請をいただいております。

日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に関する調査特別委員会

7月12日に開催された日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に関する調査特別委員会で町長からの報告で、6月9日帯広市役所で環境省中央環境審議会自然環境部会委員13名と日高側7町、十勝側6市町村との意見交換会がありました。席上、奥田自然環境局長から、地権者の皆様への説明と協議を丁寧に行う考えで、年内指定ではなく町議会の特別委員会の委員の皆様と協議したいとの要望がありました。委員からは多数、少数の意見をまとめて町長が判断すべきという意見がありました。

9月16日の委員会で環境省の北海道地方環境事務所から提出された図面について協議し、委員から地権者に対して丁寧な説明をして欲しい、全員の同意がない場合は進めないとの意見に、町長はわかりやすく説明し、地権者からの同意がなければ同意しない旨提出したいとの答弁がありました。

全員協議会

国道336号の内陸避難道路早期建設期成会（仮称）について

6月22日、「国道336号の内陸避難道路早期建設期成会（仮称）」について、様似町、えりも町とも海岸線に沿って走る国道336号線が唯一の単線交通網で、たびたび災害で通行が途絶するため、様似町及び広尾町に抜ける内陸道路を早期に建設することを目的に進めたいとの説明がありました。委員からは、日高総合開発期成会で議論すべき、様似町が積極的に動くべき等の意見がありました。

様似消防庁舎の耐震診断結果について

9月16日、様似消防庁舎の耐震診断結果について説明がありました。



結果は、建物全体の傾きの確認、倒壊の危険性があるIs値が判定指標を下回り耐震性に疑問があり、現行基準による改築建て替えが必要となりました。今後、町が予定している西町高台（旧西町第2団地跡）を含め、場所、規模等について協議することとなりました。

9月定例会では、議員5名・10件の一般質問を行いました。

質問①

8月12日、鵡苫地区の「水害」について



水野洋一議員

問 当日の「水害状況」と対応について。

答 質問にある鵡苫地区の場所は、役場から鵡苫地区に向かい鵡苫漁港入口の約100m手前にあります、バス停留所鵡苫築港周辺の旧JR日高線側に係る場所である。

当日の水害状況は、8月7日から8月12日にかけての大雨により、鵡苫地区住宅地の冠水、国道への土砂流出が発生した状況であります。当日の対応については、午前9時頃に鵡苫地区住民から「国道に沢水が溢れ出しているので対応して欲しい」との電話連絡があり、直ちに職員2名で現場状況の確認に向かった。現場の住宅地や国道の状況、周辺山地斜面の沢水の流れなどの状況を確認したうえ、役場に戻り保管してある土のう55袋を積み込み運搬し、鵡苫地区の住宅地や国道に土砂流出しないよう、排水施設の周辺に土のうを設置する対応をした。



問 今回のような状況は初めてなのか。

答 異常気象の際に、鵡苫地区の排水施設から土砂流出した状況は、平成24年から令和3年までの過去10年間で3回発生している。1回目は、平成25年9月16日の台風18号に伴う豪雨。2回目は、平成28年8月17日の台風7号に伴う豪雨。3回目は、平成30年3月9日の豪雨に伴う融雪の際に、今回のような状況になっている。

問 原因と今後の対策について。

答 今回の水害原因については、8月7日の降り始めから8月12日にかけて、127ミリの大雨が降ったことにより、鵡苫地区周辺山地斜面の表面浸食などによる土砂が、沢水により旧JR日高線の横断側溝を挟んだ下流の排水施設に流出され、その流出土砂が流末の町管理側溝や集水桝（ます）、国道管理の路面桝等に堆積したことが原因で、住宅地や国道に土砂流出したものである。

今後の対策については、水害原因である山地斜面から下流への土砂流出を軽減させるため、町の応急対策として9月9日と12日に山地斜面法尻に素掘りの土砂留め桝および素掘り側溝などの応急対策工を実施した。

また、抜本対策として山地斜面からの土砂流出を防止、軽減するための治山工事を早急に施工していただくよう北海道へ要望していくとともに、町の抜本対策として、旧JR日高線の譲渡予定用地に北海道の治山工事に併せた土砂流出防止対策工や排水工整備を進めたい。

質問②

北海道が公表した、日本海溝・千島海溝沿い巨大地震の被害想定について



問 北海道が公表した、日本海溝・千島海溝沿い巨大地震の被害想定による、様似町の被害想定に基づいた対応について質問いたします。

答 今年度末ハザードマップが完成いたしますが、それまでに各自治会や町民の皆様と十分協議しながら、対応いたします。